



2017年5月号
第363号
bestopia.jp

パリ通信
第65号

追悼

ついに逝ってしまった友への想い（パリ通信第65号にも掲載あります）
馬場政英さん（享年60歳）2017年5月13日14時15分、家族、親しい友人に囲まれて逝かれました。

今年の1月6日から2月21日にかけて、私に人生最高のプレゼントをしてくださった人です。深い悲しみと寂寥感が胸に迫りますが、彼の遺言によって弔辞を述べました。彼との出会いから惜別までを個人誌ベストピアに残します。

(1) 出会い

1989年12月14日でした。当時わたしは日本創造教育研究所の外部トレーナーをしていました。当日の担当は福岡12LT（リーダーシップ・トレーニング・コース）受講生は約100名、2泊3日の長丁場の研修です。7名のアシスタントが加わる組織的なプログラムです。馬場政英さんはその一人でした。ともかくこの日が初対面でしたが第1日目の反省会から印象深く残っていました。第2日目が9時から始まりましたが、一人の青年が時間に間に合わずセミナーはスタートしましたが、トップとして気に掛かって、20分位経過したところで、上手く時間を作って、青年の状況を調べてもらうように指示しました。ホテルのチェックアウトが済んでいないことが分かりわたしは咄嗟に馬場政英さんをお願いをしました。

「もしかしたら彼は亡くなっているかも知れない。フロントと協力して複数人で現場を確認してください」

15分と経たない内に、不幸にしてわたしの予想通りになってしまいました。セミナーは続行しなければなりません。わたしはその場を離れることは出来ず、又、受講生には終了後に伝えることを決心して淡々と進行

していきました。二日目が終わる反省会で「今回のリーダーはわたしで良かったと思う」とアシスタントの皆さんに話しました。後日、馬場政英さんが「わたしが先生とお付き合いしたいと思ったのは、あの一言でした」と伝えてくださったのです。二人で寒い夜でしたがその青年の通夜に参列して「この青年の死から何を学ぶべきか」を話し合いながら沈痛な思いで歩いた道を思い出します。

2017年2月7日付け、馬場政英さんがわたし宛て遺言の一通となっている手紙には当時のことが次のように書かれています。

「知り合って間もない頃、命のはかなさ、時の大切さを先生の決断で、体験として私に教えていただき以来30年近くになります。大略 ひきうける覚悟・応えることの大切さ—————」

(2) 息子の媒酌人をしていただく

息子は大学卒業後農業に従事したいとの希望で受け入れ先を馬場政英さんのお世話で筑後市に決め福岡県立農業試験所（二日市）で一年の研修の後に「いちご農家」として就農しました。翌年平成8年（1996年）5月には大阪で結婚式を挙げるに際して媒酌人を受けて頂き遠路の務めをいただきました。その後、筑後で生まれた二人の孫共々親しくして頂き、陰になり又陽なたになり面倒を見て頂きました。その後、都合で宝塚に移転することになり、2002年6月に筑後を去りましたが、その後も変わらずに親交をいただき、宝塚の家も訪問してくださり孫たちとの親しい交わりが昨日のように記憶に残っています。

(3) 大切なお客様でした。

わたしは神奈川県南足柄市で税理士を32年間開業しておりましたが70歳（2012年）で資格を返上するまでの長い間、(株)馬場材木店と顧問契約を頂き税務の担当をさせて頂きました。無資格になりましたが後継者の大輔さん夫妻にも信頼をいただき経営の日常業務の処理についてご一緒に学んでいます。若い人の感性には驚くべきことが多く豊かな学びが日々あり、前進が実感できます。啓介さんが入社され更に充実した営業

体制が出来上がり更なる発展が楽しみです。遠路でありましたがお引き立てをいただき経済的な援助をいただきました。

(4) 「念ずれば花ひらく」第505番碑の移設

この件については「ベストピア第360号」に詳しく記しました。

1999年7月14日 筑後市高江75-2 旧小原譲治自宅庭に建立

2002年6月30日 筑後市立病院へ移設

2017年1月06日 福岡県立八女高等学校へ移設

2017年2月21日 福岡県立八女高等学校講堂にて趣旨説明会開催

以上は全て馬場政英さんが命を懸けて果たしてくれました。

感謝にたえません。

(5) 惜別へ

4月13日にお会いして次回は5月14日家族会をする計画をしていましたが急遽のメールで4月30日にお伺いしました。(家族会は5月4日自宅の庭で晴天下、賑やかに行われました)

① 最後の受信メール 2017年4月28日

「小原先生

一昨日久留米大学病院、昨日は福岡市の国立ガンセンターに今後の治療についての相談に行きました。結論としては今の私の身体の状態としては、がんと闘う体力は無く、副作用にも耐える事は難しいということでした。中略、肩の痛みや指の痺れで文字を書いたりできないことなど不快感や不自由さがありますが理解ある父や優しい妻や賑やかな孫達に囲まれて良い時間を過ごすことができます。

こんな状況ですので大きな変化はなくて、先生とお会いしても暗い話しになって恐縮なのですがそれでもお会いできるのを楽しみにしています。4月28日 馬場 政英」

わたしの返信です「よく戦いよく今を生きておられます。大きな証をいっぱいされている姿に感動し敬服しています。早い時期にお伺いします」

30日にお会いして最初の話は存在についてでした。

「to be について考えています。この痛みの意味はなんであるかも考えています」多くの人が入れ替わり立ち替わりするなか一日一緒に考え議論しました。be= 在る。受動態とし「在らしめられる」等々ユーモラスな禅問答のようなことを二人でしました。



少し回復して5月1日には親しい友人が北九州市の河内藤園に導いてくれました。以前から念願の所でした。いい写真が残っています。

② 危篤の知らせ 2017年5月9日17:57、
建人君から「もう話ができなくなります」（家族の苦悩のにじみ出る雰囲気伝わりました）

わたしは高松におりましたが予定を変更して家に戻り体力の調整をしました。

③ 2017年5月11日体力を整えて最終便で福岡へ。
12日朝訪問しましたが、理性的な応答は出来なくなっていました。感性の働きはありました。わたしは馬場政英さんが最後まで気にしておられたことへの回答を伝えました。それから恵美さんの許可を得て讃美歌298番「やすかれ、わがこころよ」を独唱しました。痛みも苦しみを、ゆだねられますようにと祈りました。その後は多くの友人がお見舞いに来られ賑やかな一時が続きました。

④ 13日朝から訪問し10時酒井智子姉と吉嗣範子姉の到来を待ちました。13時少し過ぎた頃三人で食事に出かけ、気もそぞろで14時過ぎに戻りました。冷たさが伝わりました。一声かけてわたしは独り別棟の小部屋に入り、讃美歌320番「主よ、みもとに 近づかん」を歌い終わり321番の2番に入ったところで酒井智子さんが「今息をひきとられました」と伝えにきてくれました。（讃美歌番号は旧版です）

⑤ 仮通夜がその日の夜に親族を中心に行われました。

席上政英さんの父上淳次さんから献杯の挨拶をとのお言葉をいただき一瞬狼狽かたじけなしましたが、忝けないことを謝しつつ役目を果たしました。有難いことです。

⑥ 通夜式は14日19時から行われました。

950名を越していたと思われます。遺言によって通夜で流される音楽が開式前はケニー・Gの「The Champion's Theme」、式後は玉置浩二の「メロディ」でした。喪主の挨拶の前に政英さんが生前に録音していた「挨拶」が流れ、会葬方々への感謝と短いメッセージがあり、「多くの反省はありますが、後悔はありません」と断定した声に多くの方には学びが与えられ、少し癒やされました。長男大輔さんの挨拶も涙むせびながら感動的でした。式後に流れた玉置浩二の「メロディ」は歌詞が入っており本人が歌っているかのように思える調べでした。カラオケでいつも歌っていた愛唱歌だと親友の城後さんが教えてくれました。

⑦ 15日午前茶毘にふされ本葬は午後2時からでした



2017年5月15日10時20分 筑後市上空 撮影者 おはらやすお

政英さんの遺言によって本葬の前に荼毘にふされることになり、8時半から読経、出棺と進み10時少し前に最後のお別れが終わりました。わたしは始はご親戚の方と話していたのですが、導かれるように戸外にでました。新緑の美しい庭園に出て空を見上げました。それがこの写真です。時刻は10時20分です。少しの時間差でこの空を見上げていた人がおられました。馬場さんにもう一度会いたいと渴望されていた八女高等学校の体育の先生と酒井智子さんの保育園児と保育士さんたちです。場所はそれぞれに違い若干の時間差がありました。現象は彩雲でした。

⑧ 本葬 2017年5月15日14時

心に響き渡る読経の後、弔辞は筑後市議会議長、親友の城後さん、孫の隆成君（9歳）と続きましたがこの隆成君の弔辞は実感が溢れ惜別が極まる感動的な言葉でした。会場の空気が変わりました。なんと表現していいのでしょうか？

その後がわたしでした。ご遺族の了解を頂いて弔辞の前文を掲載します。最後は八女高等学校の生徒会長さんの弔辞に続いて校歌斉唱です。7人の現役生徒代表が前に出られ、会場の卒業生多数が加わり、政英さんの人生の原点となった母校の歌で式は締めくくられました。参列者は（推定）600名を超えていたと思われまます。

弔辞

馬場政英さんのご霊前に謹んでお別れの言葉を捧げます。

若い人の霊前に立つことは心が掻きむしられる思いで一杯です。

あなたの遺言によって私は今、不思議な力に支えられて、ここに立っています。

馬場さん！今日、あなたが荼毘にふされていたときに、わたしは導かれるように外に出て空を見上げました。新緑の木々の向こうに美しい虹のような彩雲さいうんがありました。どんな意味があるのでしょうか。発病から2年7ヶ月、生きるには短く、闘病には長い日々でした。然し

「走るべき道のり」を立派に完走されました。その道のりは多くの方々に命の尊さを示されたばかりでなく、壮絶な痛み苦しみの中にあっても、こんなにも人は勇気を持ち続けることができ、威厳を保てるのだとの驚くべき証をされました。真に、人間讃歌の生涯でした。

発病して、あなたが一番心を痛められたことは、父上より先に旅だつのは申し訳ない、なんとかこの親不孝だけは避けたいということでした。それは息子を亡くした親の悲しみを充分に知っておられたからです。

ご両親への恩返しをどうしたらできるのか苦悶されました。

そして父・淳次さんのような謙虚で誠実なそして実行力のある政治家になりたいとの願いを実現すべく市議員選挙に立候補し、初回の選挙で第二位の投票を勝ち得ました。それは多くの市民の方々からの賞賛と期待の証であり、その賞賛と期待はひとえに誠実で寛容なあなたの人柄にありました。

「弱い者にも光が当たる世の中にしたい」それがあなたのモットーでした。

議員になる前から母校の八女高等学校同窓会の皆さんと「返還しなくてよい奨学金制度」を全国に先駆けて立ち上げました。その恩恵を受け感謝して勤^{いそ}しんでいる生徒さんが数多くおられます。

議員になってからも市民生活の細かなところ日陰になりがちな所に眼を向け、冷静に公平を旨とする発言を多くされました。

4月30日にお会いしたときには「議員の辞め時を考えている。議員に生かされてきた。やり甲斐のある仕事であった。」と言われました。苦しかったでしょう。又、あなたは他の議員の方への感謝の言葉を忘れていませんでした。

「声の出ない自分のためにマイクを用意してくれて、有難くて感謝の涙が止まらなかった」と言われました。自宅療養に移ってからも積極的に市民の声を聞く姿勢を保ち病床から議員としての使命を果たしてこられました。

本年1月には筑後市立病院にありました「念ずれば花ひらく」第505番碑を八女高等学校に移設するという大事業を果たしてくれました。加えて2月21日には八女高等学校において500人に近い生徒さんに「念ずれば花ひらく」の由来についての講演をさせて頂く栄光を頂きました。寒

い日でしたが、あなたはそこに父上と共に臨席をしてくださいました。私にとっては生涯最大の光栄な晴れ舞台を与えてくださいました。感謝にたえません。

この第505番碑は馬場政英さんの意志を抱いて母校の生徒さんたちに末永く語り継がれます。これは馬場政英さんなくしてはなし得えなかったことです。この碑と共にあなたの魂があると私は信じます。

この母校において貴兄は恩師に出会い自己を確立され、又バレーボール部のキャプテンとして活躍されたことは今も多くの方々の記憶に残っています。

とは申しましても、若いあなたとの別離は悲しく寂しさはひしひしと胸をついてきます。特にご両親さまの悲しみは想像を絶します。

恵美さんの海よりも深い、どんな荒波にも呑み込まれない、優しくて強い愛情一杯の看護を受けてこられました。

恵美さん、よく頑張られました。苦しみを共にしつつ喜びを見出す深い愛情を一杯に注がれました。その感謝のメールを政英さんから私は沢山頂いています。パリで蘇ったあなたの命に感謝すべく去年は二人でパリへ行かれました。最後の海外旅行になりましたが、二人で共に走った人生を顧みたかったのでしょうか。

パリの古賀順子さんは5月5日ジヴェルニーを訪ね、そこからメッセージが届きました。

「昨年馬場夫妻と共に訪ねるはずの場所でした。私は人の人生で、時間も場所も超える心の領域があると思います。時間も場所も消え去り、人の思いが届く場所があります。そこで感じる太陽や風は、共有した時間から凝縮された純粋な結晶です。政英さんと実際に過ごした時間は決して長いものではありません。しかし、寛容で、いつも前を向いて歩く姿、人への感謝と思い遣りに、学ぶことは尽きません。政英さんの魂が温かい光に包まれることを祈ります。受け入れるよりないことですが、哀しいです」

このように多くの心優しい友人に囲まれ、注がれた豊かな愛情が苦しい日々の癒やしの糧になりました。温かい太陽の下、親しい友人につきそわれて念願であった河内藤園での美しい藤や花々から一杯の恵みをうけ感謝の涙で溢れました。

政英さんご夫妻は子宝に恵まれ3人のお子さんは立派に成長され、淳次さん政英さんに続いて大輔さんが社長を務める馬場材木店は次男の啓介さんとのコンビでこれからも発展続けるでしょう。大輔さん啓介さんはよき伴侶に恵まれ三人のお孫さんに囲まれての賑やかな日々が、あなたの激痛を癒やしたことでしょう。間もなく生を受ける命に代わってあなたは逝くのでしょうか。大きな命の働きを感じます。建人くんの合格を見まもってください。建人君からのメッセージがあります。

「お父さん、命を与えてくれてありがとう。お父さん、お母さん、そして馬場家の子供として生まれてきて本当幸せです。

お父さん、立派に育ててくれてありがとう。こんな立派になれたのもお父さん、お母さんが頑張ってくれたからだと思います。ちゃんと自立したところを見せられなかったことがとても悔しいです。

お父さん、目標でいてくれてありがとう。最近みていて、お父さんは一緒に笑ったり、泣いたりしてくださるたくさんの人たちに囲まれていてかっこいいと思いました。きっと、お父さんが努力して築き上げてきたことを認めてくださっていて、そしてなによりお父さんの人柄に惹きつけられるんだと思います。将来自分も子供の目標になれるように頑張ろうと思います。まだまだ話したいことたくさんあるし、お父さんと2人で飲みに行ってみたかったし、これから相談したいことたくさん出てくるのにお父さんがいないのは本当に寂しいです。でも、きっとお父さんは家族みんなのそばにいます。これからたくさん心配かけることがあると思うけど、どうか見守っていてください。

お父さん、本当にありがとう。」

あなたに代わってわたしの命ある限り建人君を育てます。

今、全ての苦しみと痛みから解き放たれて浄土へと旅立たれる馬場政英さん、どうぞ、深い悲しみと苦しみの淵にたたれておられるご両親とご家族の上により大きな力をが与えられるように見まもってください。

ご冥福をお祈りいたします。

2017年5月15日 小原靖夫

おわりに

体も大きく一緒にいますと雛鳥が親鳥の大きな翼のもとで庇護を受けているような安堵がありました。寛大で安心感にあふれ、大船に乗った感でパリを闊歩しました。互いに信頼しあい腹蔵なく語り合いました。二通の芸術作品のような手紙をいただきました。絶筆には「覚悟」「応える」「言葉」を送って頂き力ないわたしから、それらの能力を引き出して受けとめて頂いてことに改めてお礼申し上げます。

わたし達親子は本当にお世話になりました。闘病生活は3年近くなりますが、周りの人々に感謝の意を常に示し謙虚に、時に勇敢に、悔いのない人生を送られました。したいことはまだまだ沢山あり、多くの方々からは渴望の的でした。ご両親さまのお気持ちは計り知れませんが、あの大きな葬儀の最後のご挨拶でもわたしを顕彰していただき身に余る思いで一杯です。地域社会も大きな人材を失い痛手が残りますが馬場政英さんのメッセージが遺されています。筑後市の更なるご発展を祈ります。



上記写真は小部保育園2017年5月15日10時26分 野外保育 佐賀市 太陽と雲

1941年は次月以後に延期します。

わたしにとってこの年は越えがたい何かを持っているようです。

もっと深く学ばねばならないようです。